

江戸時代の郷蔵建築Ⅱ

——遺構を中心として——

富 山 博*

The Gōkura, Village Granary, in the Edo Era. Part II Building

Hiroshi TOMIYAMA*

(Received August 26, 1969)

In the Edo era Gokura was located in almost every village of our country. It was set up with the following purposes: collecting a land-tax, and storing villagers' grain.

The purpose of the present note is to show the Gokura buildings which have been investigated by the author for the past ten years.

108 Gokura buildings are summed up in the table.

1. まえがき

前報¹⁾において江戸時代の郷蔵には、御蔵とも呼ばれる年貢米収納用郷蔵と、社倉に代表される備荒貯穀用郷蔵とがあったことをのべ、特に郷蔵屋敷の位置と広さについて論じた。

本報告は調査で明らかになった。江戸時代の郷蔵遺構について概観し、ついで主なる遺構について解説した。

2. 江戸時代の郷蔵建築遺構の概要

江戸時代において郷蔵がどれ程存在していたかについては、前報にのべたように、領主、郷蔵の種別、年代等による差異があつて、一概にのべることは困難である。たとえば萩藩における江戸末期1841年頃の場合について、「防長風土注進案」²⁾によって作成した例を第1表に示す。これによると宰判³⁾によって1村当りの郷蔵数に大きな違いがみられる。その原因としては、村の立地、石高、広さ、地形の他に給領地の存在が考えられ

第1表 萩藩郷蔵所在地別種別棟数表

宰判名	大島	奥山代	前山代	上関	熊毛	都濃	三田尻	徳地	山口	小郡	船木	吉田	美称	先大津	前大津	当島	奥阿武	計
調査年次	1841	1842	1842	1841	1841	1841	1841	1843	1841	1841	1842	1841	1842	1842	1842	1845	1843	
管内村数	30	16	13	22	21	19	31	20	22	16	43	15	11	17	13	12	19	340
御米蔵	22	87	50	20	31	16	15	55	34	20	82	79	43	20	21	35	66	706
蔵入領	12			8	16	10	7		28	52	48	65	49	33	31		46	395
囲米蔵		1	3			3						6			1	2	3	19
蔵入領														10				10
富民蔵																		
蔵入領																		
社倉	18			11	7		1			10	13	10					4	74
蔵入領	2										8						5	15
計	54	88	53	39	54	29	23	55	62	82	151	160	92	63	53	37	124	1219

* 建築学科 (Department of Architecture)

第2表 江戸時代の郷蔵

蔵 名	所 在 地	領 名	建築年代	目的	規 模				柱 間 寸 法	
					桁行	梁間	坪数	高さ	桁行・梁間	
					(間)	(間)	(坪)	(M)	(M)	(M)
新岡 郷蔵	青森県中津軽郡岩木村	弘前			4	3	12	3.4	0.96	0.97
感恩講 もみ蔵	秋田県秋田市本町	秋田	1850頃	貯穀	12	3.5	42	4.6	0.91	
局 郷蔵	山形県酒田市局	庄内			3	2.5	7.5	3.0	0.91	0.91
西袋 郷蔵	〃 東田川郡余目町	〃			2	2	4	2.7	0.49	0.50
播磨京田郷蔵	〃 鶴岡市播磨町	〃			8	4	32	3.1	0.91	0.91
上町 郷蔵	〃 山形市上町	山形		年貢	4	3	12	3.3	0.91	0.78
上町 もみ蔵	〃 〃 〃	〃	1860文献	貯穀	2.5	2	5	2.9	0.65	0.61
下小松 郷蔵	〃 東置賜郡川西町	米沢			5	2	10	3.5	0.96	1.10
窪田小瀬郷蔵	〃 米沢市窪田小瀬	〃	1853修理		3	2	6	3.3	0.96	0.96
雨屋 郷蔵	福島県会津若松市大戸	会津		貯穀	2	1.5	3	2.3		
舞木 郷蔵	〃 安積郡三春町	三春			3.5	2	7	2.8	0.96	0.99
塚本 郷蔵	〃 東白川郡鮫川町	棚倉			3.5	2	7	3.5	1.06	0.91
荷路夫 郷蔵	〃 石城郡田人村	泉		貯穀	3	2	6	2.7	0.91	0.91
久保田 郷蔵	茨城県石岡市久保田	府中		年貢	5	3	15	2.7	0.91	1.82
実取 郷蔵	栃木県太田市親園	幕府		貯穀	2.5	1.5	3.8	3.2	0.92	
稻生田 郷蔵	〃 芳賀郡芳賀町				3	2	6	3.4	0.95	0.95
上泉 郷蔵	群馬県前橋市桂査町	前橋	1796棟札		8	3	24	3.1		0.93
小坂子 郷蔵	〃 〃 芳賀町	〃			5.5	2.5	13.8	3.6		
小室 郷蔵	〃 勢多郡北橋村	〃			3	2	6	2.7		
勝保沢 郷蔵	〃 〃 赤城町	〃		貯穀	2	2	4	2.3		
横塚 郷蔵	〃 沼田市利南	沼田			3	2	6	3.6		
下久屋 郷蔵	〃 〃 〃	〃			2.5	1.5	3.8	3.2		
上糸井 郷蔵	〃 利根郡昭和村	前橋			3	2	6	3.3		
下平 郷蔵	〃 〃 片品村	幕府他		貯穀	2.5	1.7	4.3	3.3		
御座入 郷蔵	〃 〃 〃	〃		〃	2	1.5	3	3.2		
越本 郷蔵	〃 〃 〃	〃		〃	2.3	1.6	3.7	2.4		
戸倉 郷蔵	〃 〃 〃	〃		〃	2.5	1.8	4.5	3.5		
桐原 郷蔵	〃 桐生市大間々町	幕府	1847記録	〃	3.5	2.5	8.8	3.6		
堀切 郷蔵	東京都葛飾区堀切町2	〃		年貢	3	2.5	7.5	2.6	0.90	0.90
石川 郷蔵	〃 大田区石川町1	〃		貯穀	1.5	1	3	1.7	0.91	1.73
小川 穀びつ	〃 小平市小川町1	〃		〃	3.7	1	3.7	1.9	0.57	0.66
上川口 稗穀蔵	〃 八王子市川口町	〃		〃	2	1.6	3.2	3.2	0.92	0.91
(道志) 郷蔵	山梨県南都留郡河口湖	〃		〃	2	1.5	3	2		
下管口 郷蔵	〃 中巨摩郡敷島町	〃		〃	1.7	1.2	2	2.5	1.26	1.11
上管口 郷蔵	〃 〃 〃	〃		〃	2.5	1.2	3	2.3	1.10	1.26
柴橋 郷蔵	新潟県北蒲原郡中条町				3	2	6	3		
与良 郷蔵	長野県小諸市与良町	小諸			6	3	18	4.9		
伊勢山 郷蔵	〃 上田市神科町	上田	1856頃瓦銘		8	2.5	20	3.5		
下原 郷蔵	〃 小県郡真田町	〃	1800墨書		5	2.5	12.5	3.1	1.14	
八木沢 郷蔵	〃 〃 塩田町	〃			6	3	18	2.8	1.08	0.94
飯沼 郷蔵	〃 〃 丸子町	岩村田			6	3	18	4.3	1.82	1.32
長久保 郷蔵	〃 〃 長門町	幕府	1859文献	貯穀	8	1	8	1.8	0.91	0.91
土村 郷蔵	〃 南佐久郡小海町	〃	1763 〃		2.5	2	5	2.6		
笠原 郷蔵	〃 〃 〃	〃	1810頃 〃		1.3	1.1	1.4	2.4		
若宮 郷蔵	〃 諏訪郡富士見町	諏訪	1847墨書		2.5	2	5	3.6	1.52	
乙事 郷蔵	〃 〃 〃	〃	1821棟札		3.5	2.5	8.6	3.4	0.94	0.95
乙事 帳蔵	〃 〃 〃	〃	1804 〃		2	2	4	2.6	1.83	1.83
弥勒 郷蔵	〃 上伊那郡高遠町	高遠			3	2	6	3.5		
黒沢 郷蔵	〃 〃 〃	〃			2.5	1.5	3.8	3.1	1.52	1.33
飯沼沢 郷蔵	〃 〃 辰野町	〃			2	1.5	3	2.7		
羽場 郷蔵	〃 飯田市羽場	飯田			3	2.5	7.5	3.4		
大瀬木 郷蔵	〃 〃 大瀬木	〃	1857墨書	貯穀	3	2.5	7.5	2.9		
阿知原 郷蔵	〃 下伊那郡下条村	高須			3	2	6	3.4	1.07	0.89
立田 郷蔵	〃 南安曇郡梓川村	松本	1829墨書		5	3	15	4.4	0.90	1.58

現 存 遺 構 表 (1)

構造階数	架構形式	屋根 型式 葺 材	庇	床高 (M)	戸 数	高さ (M)	前 巾 建具	窓 数	設 備	移築 改築	参照 文献	文化財の 指定	調査年
土蔵平屋	くら折置	切妻 2 重鉄板	ない	板 0.3	1			1					1964
〃 〃	〃 〃	〃 〃 〃 〃	戸前	土	2		土開戸	6	穀箱付		103		〃
板蔵 〃	〃 〃	〃 〃 〃 〃	〃	板 0.4	1		板引戸			移築	32		1963
〃 〃	〃 〃	〃 〃 〃 〃	ない	〃 0.3	1	1.79	0.80 〃	0			〃		〃
土蔵 〃	〃 〃	寄棟 2 重旧茅	戸前	土	1	1.97	1.54	5		改築	〃		〃
〃 〃	〃 〃	切妻 〃 鉄板	〃	〃 0.3	1			1			〃		〃
板蔵 〃	〃 京呂	〃 〃 〃 〃	ない	板 0.4	1	2.35	0.79 落し板	1			〃		〃
〃 〃	〃 折置	〃 2 重鉄板	あり	〃 0.3	1			1		改築	〃		〃
〃 〃	〃 〃	〃 〃 〃 〃	ない	〃 0.5	1	1.73	0.82 板引戸	0			〃		〃
真壁 〃	はこ	〃 〃 旧茅	〃	〃 〃	1		〃	1	穀箱付	移築	6		1961
土蔵 〃	くら折置	〃 2 重 〃	〃	土	1	1.65	1.28 土引戸	1			7		〃
〃 〃	〃 〃	〃 〃 茅	〃	板	1	1.90	1.25 〃	0		移築	〃		〃
板蔵 〃	はこ	〃 〃 板	〃	〃 0.5	1	1.70	1.69 板引戸				〃		〃
〃 〃	〃 〃	寄棟 茅	〃	〃	1	1.70	1.68 〃	1		移築	〃		〃
〃 〃	くら折置	切妻 板	戸前	〃 0.5	1	1.73	0.97 〃	1		〃	12		〃
〃 〃	〃 〃	〃 2 重鉄板	ない	〃 0.6	1	3	1.22 〃	0			1.69		1964
土蔵 〃	〃 〃	〃 〃 旧茅	〃	土	1	2.03	1.85 〃	2			〃	県	1959
〃 〃	〃 〃	〃 〃 茅	〃	〃	1					改造	69		1960
〃 〃	〃 〃	〃 〃 鉄板	〃	〃	1		板引戸	0			〃		1962
板蔵 〃	はこ	〃 〃 旧板	〃	板	1		〃	0			69		1961
土蔵中 2	くら折置	〃 2 重鉄板	〃	土	2		〃	1			〃		1960
〃 〃	〃 〃	〃 〃 旧板	〃	〃	1		土引戸				〃		〃
〃 〃	〃 折置	〃 〃 〃 〃	戸前	板 0.3	1		〃	0			〃		〃
〃 〃	〃 〃	〃 〃 茅	ない	〃	1	1.78	1.00 板引戸	1	穀箱付	改造	3.69		〃
〃 〃	〃 〃	〃 〃 〃 〃	〃	〃	1	1.73	1.03 〃	0	〃		〃		〃
〃 〃	〃 〃	〃 〃 〃 〃	〃	〃	1	1.81	0.97 土引戸	0	〃		〃		〃
〃 〃	〃 〃	〃 〃 鉄板	〃	〃	1	1.73	1.09 〃	0	〃		〃		〃
〃 〃	くら折置	〃 〃 板	〃	土	1		1.12 〃	0			1.69	県	1959
板蔵 〃	はこ	寄棟 茅	〃	板 0.5	1	1.83	1.75 落し板	0			〃		1962
〃 〃	〃	切妻 旧茅	〃	〃 0.3			〃	0		移改	〃		1968
〃 〃	〃	〃 〃 鉄板	〃	〃 0.6			〃	0			〃		〃
〃 〃	〃	〃 〃 〃 〃	〃	〃 0.2	1	1.97	0.76 板引戸	1		移築	〃		〃
〃 中 2	くら	〃 〃 旧板	〃	〃 〃	1	1.55	1.33	0		〃	〃		1967
〃 平屋	せいろう	寄棟 旧茅	〃	土	1	1.71	0.86 板引戸	0			〃	県	〃
土蔵 〃	はこ	切妻 鉄板	〃	板	1	1.64	1.02 〃	2		改築	〃		〃
〃 〃	くら京呂	〃 〃 〃 〃	〃	土	1						〃		〃
板蔵 〃	〃	〃 〃 〃 〃	〃	板	1						〃		〃
〃 2 階	〃	切妻 2 重鉄板	桁行	〃	2		土引戸	5	穀箱付		17		1961
〃 平屋	くら折置	〃 〃 〃 〃	戸前	土	1	1.83	1.38 板引戸	1	〃	移改	18		〃
土蔵 〃	〃 〃	〃 2 重 〃	ない	〃 0.3	1	1.80	1.70 〃	8	〃		〃		〃
〃 〃	〃 京呂	〃 〃 〃 〃	桁行	板 0.3			〃			改築	〃		1967
〃 〃	〃 〃	〃 〃 〃 〃	〃	〃 〃	2	1.92	1.58 〃	4			〃		〃
板蔵平屋	はこ	〃 〃 〃 〃	ない	〃 0.5		1.60	0.75 落し板	0		移築	〃		〃
〃 〃	せいろう	〃 2 重板	〃	〃 0.2	1	1.68	1.01 板引戸	0		改築	17		1961
土蔵 〃	〃	〃 〃 〃 〃	〃	〃	1	1.76	0.84 〃	0			〃		〃
〃 〃	〃 〃	〃 〃 〃 〃	屋根	〃	1	1.70	0.96 土引戸	1			〃		〃
〃 〃	くら折置	〃 〃 〃 〃	ない	板 0.2	1	1.72	1.25 土開戸	1		移築	〃		1967
〃 〃	〃 〃	〃 〃 〃 〃	屋根	〃 0.3	1	1.60	0.81 土引戸	0		改移	〃		〃
〃 〃	〃 〃	〃 〃 〃 〃	ない	〃	1	1.85	0.86 〃	1		〃	10		1961
〃 〃	〃 〃	〃 〃 〃 〃	〃	板	1	1.74	0.97 〃	0			〃		〃
〃 〃	〃 〃	〃 〃 鉄板	〃	〃	1	1.68	0.88 〃	0			〃		〃
〃 〃	〃 〃	〃 〃 〃 〃	桁行	板 0.5	1	1.75	1.59 〃	1		移築	9		〃
〃 〃	くら折置	〃 〃 〃 〃	屋根	〃 0.4	1	1.73	1.13 鉄板戸	0		〃	〃		〃
〃 〃	〃 〃	〃 〃 〃 〃	〃	〃 0.2	1	1.65	1'07 土引戸	1		〃	〃		〃
〃 2 階	〃 〃	〃 〃 板	〃	〃	1	1.76	1.24 〃	1		〃	〃		1965
〃 〃	〃 京呂	〃 〃 〃 〃	桁行	土	1						〃		〃

第2表 江戸時代の郷蔵

蔵 名	所 在 地	領 名	建築年代	目的	規 模 桁行・梁間・坪数・高さ (間)(間)(坪)(M)	柱 間 寸 法 桁行・梁間 (M) (M)
中村 郷蔵	長野県南安曇郡梓川村	松本			4 4 16 2.9	1.82 1.82
新淵 郷蔵	岐阜県大野郡庄川村	幕府	1692棟札		2.5 2 5 2.5	1.22 0.97
中津川 郷蔵	〃 中津川市倉前町	木曾	1808墨書		8 3 24 3.2	1.90 1.43
下手向 郷蔵	〃 恵那郡山岡町	幕府	1781棟札		5 3 15 2.8	0.95 0.94
豊住 郷蔵	静岡県磐田郡浅名町	横須賀	1860 〃		4.5 2 9 2.8	0.92 0.91
広岡 郷蔵	〃 引佐郡細江町	井伊谷	1807 〃		3 2 6 3.0	1.37 1.21
油田 郷蔵	〃 〃 〃	気賀			4 2 8 3.3	0.91 1.15
三輪河内郷蔵	愛知県北設楽郡東栄町				3 2.5 7.5 2.3	1.81 1.49
坂本 郷蔵	〃 蒲郡市坂本町	津田	1860棟札		2 1.5 3 2.2	1.14 1.03
西尾 義倉	〃 西尾市伊文町	西尾	1858文献		6 3 18 4.7	0.89 0.99
谷田 郷蔵	〃 碧海郡知立町				3 2 6 3.9	0.91 0.91
星合 郷蔵	三重県一志郡三雲村	津			3 2 6 3.2	0.91 0.91
越賀 郷蔵	〃 志摩郡志摩町	鳥羽	1838棟札		4.5 2 9 3.0	1.01 0.91
河内 郷蔵	〃 北牟婁郡海山町	和歌山	1859 〃	貯穀	2 2 4 2.3	0.92 0.91
上里 郷蔵	〃 〃 〃	〃		〃	2.5 2 5 2.2	1.08
小山 郷蔵	〃 〃 〃	〃		〃	2 2 4 2.3	0.91 1.11
北舟木 郷蔵	滋賀県高島郡安曇川町				5 3 15 2.2	0.94 0.93
南舟木 郷蔵	〃 〃 〃				5 3 15 3.6	0.94 0.95
金谷 郷蔵	〃 大上郡甲良町	彦根			5.5 2.5 13.8 4.6	0.99 1.00
愛知川 郷蔵	〃 愛知郡愛知川町	〃			3 2 6 3.8	1.80 1.80
鎌掛 郷蔵	〃 蒲生郡日野町	幕府			7 2.5 17.5 3.7	0.98 0.98
西大路 郷蔵	〃 〃 〃	仁正寺			8 3 24 3.9	
辻 郷蔵	京都府北桑田郡京北町				2 2 4 2.8	
片波 郷蔵	〃 〃 〃		1862棟札		2 1 2 1.8	
鳥居 郷蔵	〃 〃 〃		1806 〃	貯穀	2 1.5 3 3.4	0.91 1.15
大島 郷蔵	〃 綾部市大島町	綾部	1840文献		2 2 4 3.1	1.00 0.97
比賀江 郷蔵	〃 北桑田郡京北町				2 1.5 4.5 4.1	1.73 1.01
助松 備前蔵	大阪府泉大津市助松町	清水氏	1793墨書	貯穀	3 2 6 2.8	0.99 0.99
阿知賀 郷蔵	奈良県吉野郡下市町				3 2 6 3.9	1.48 0.99
室津 郷蔵	〃 山辺郡山添村				2 2 4 2.7	1.11 0.87
市野々 郷蔵A	和歌山県那智勝浦町	那智他			2.2 1.7 3.6 1.9	
〃 蔵B	〃 〃 〃	〃			3.2 1.8 5.7 1.9	
妻鹿 固寧倉	兵庫県姫路市妻鹿町	姫路		貯穀	3 2 6 3.6	0.82 0.98
網干 社倉	〃 〃 網干町	竜野		〃	3 2 6 3.9	0.49 0.63
香登本 郷蔵	岡山県和気郡備前町	岡山			5 3 15 3.4	0.98 0.98
由津里 郷蔵	〃 赤盤郡赤坂町	〃			5 2 10 4.3	0.95 0.99
(瀬戸) 郷蔵	〃 〃 瀬戸町	〃			4 2.5 10 2.8	
小森 郷蔵	〃 御津郡加茂川町	吉田氏	1811棟札		3 2 6 3.6	0.81 0.96
板谷 郷蔵	〃 〃 津高町	岡山			3 2 6 3.8	1.00 1.02
田土 郷蔵	〃 上房郡賀陽町				4.5 2 6 3.1	1.06
福田 郷蔵	広島県竹原市福田町				4 2 8 3.2	0.90 0.90
江崎 郷蔵	〃 御調郡久井町	広島			3 2 6 3.8	0.98 0.99
吉浦 社倉	〃 呉市吉浦町	〃			5 3 15	
〃 社倉	〃 〃 〃	〃			6 3 18 4.6	
市飯田 社倉	〃 賀茂郡黒瀬村	〃			4 2 8 4.4	0.94
日宇那 社倉	〃 広島市日宇那町	〃			2.5 1.5 3.7 3.8	0.92 0.96
三次 社倉	〃 三次市西本町	三次	1813文献	貯穀	8.5 4 3.4 4.6	0.95 0.93
下筒賀 社倉	〃 山県郡加計町	広島	1835以前		2 1.5 3 3.3	1.11 1.11
日脚 郷蔵	島根県浜田市日脚町	浜田			2.5 2 5 3.2	1.18 0.96
乙吉 郷蔵	〃 益田市乙吉町	〃			3.5 2 7 4.0	0.95 1.16
遠田 郷蔵	〃 〃 中遠田町	〃			6 3 18 3.4	1.12
三崎 義倉	高知県土佐清水市三崎	高知			6 3 18 3.2	
土居 殿蔵	愛媛県東宇和郡城川町	宇和島		貢米	7 3 21 3.4	0.99 0.99
須賀神社社倉	福岡県甘木市	福岡	1822文献	貯穀	5 3 15 4	0.98 1.00

現 存 遺 構 表 (2)

構造階数	架構形式	屋 根 型 式 葺 材	庇	床高 (M)	戸 数	高 さ (M)	巾 (M)	前 建 具	窓 数	設 備	移築 改築	参照 文献	文化 財の 指定	調査年
土蔵平屋	くら折置	切妻 2重旧板	桁行	板 0.3	1			板引戸						1965
板蔵 //	はこ	切妻 旧茅	//	// 0.7	1	1.77	1.04	//	0		改築	海 4		//
土蔵 //	くら	切妻 2重棧瓦	戸前	土 0.3	2	1.90	1.58	//	3	穀箱付				1967
// //	はこ	// 旧茅	ない	板 0.2		1.89	1.58	//	0					//
// //	くら折置	// 棧瓦	屋根		3			//			移築			1965
// //	// //	// //	桁行	土	1	1.72	1.25	//						//
// 2階	// //	// //	ない	//				//	0					//
板蔵平屋	はこ	// 旧茅	//	板 0.5	1				0		改築			//
土蔵 //	くら折置	// 棧瓦	屋根	// 0.5	1	1.83	1.02	板引戸	0		移築			1968
// 中 2	// //	// //	戸前	土	1	2.03	1.63	//	2					//
// 2階	// 京呂	// //	桁行	// 0.4		1.79	1.11	//	1		移築			//
// 平屋	// //	// //	戸前	//	1	1.76	1.70	//	0		改築			//
// 2階	// 折置	// 本瓦	//	板 0.6	2	1.94	1.16	//	2				県	1965
板蔵平屋	はこ	// 棧瓦	戸前					//	0					//
// 2階	// //	// //	ない	板 0.2	1	1.92	1.17	//	1					//
// 平屋	// //	// //	//	// 0.2		1.85	0.93	//	0					//
// //	くら京呂	// //	//	土 0.2	1	2.08	1.77	鉄板戸	1		移築			1968
// 中 2	// //	// //	桁行	板 0.3	1			土引戸	1					//
// 2階	// //	// 2重 //	戸前	// 0.3	1						改築			1965
// 平屋	旧経蔵	// //	//	//	1	1.83	1.73	土開戸	1					//
// //	くら折置	// 2重 //	//	// 0.2	2	1.84	1.32	土引戸	1					//
// //	// //	// //	桁行	2	1.96	1.22	//	5						//
// //	せいろ	// 2重 //	戸前	板 0.6	1	1.73	1.04	//	0		移築			1968
// //	//	// 板	ない	// 0.7	1	1.78	1.06	板引戸	0					//
土蔵 2階	くら折置	// 2重棧瓦	戸前	// 0.5	1	1.64	0.86	土引戸	2					//
// 平屋	// //	// //	ない	// 0.4	1	1.67	1.00	板引戸	1					//
板蔵 //	// //	// //	戸前	// 0.5	1	1.70	0.74	//	1					//
土蔵 //	くら折置	// 本瓦	//	// 0.5	1	1.78	1.08	土引戸	2					1969
// 2階	// //	// //	//	// 0.4	1	1.67	1.35	土開戸	2					1967
板蔵平家	// //	// 棧瓦	//	// 0.7	1	1.71	0.86	板引戸	2					//
石蔵 //	くら	//			1				0			号外		1965
// //	//				1				0			//		//
土蔵 //	// 折置	切妻 本瓦	戸前	土	1				1		改築	13		1967
// 2階	// //	// //	//	板 0.4	1			土引戸	1					//
// 平屋	// //	// //	//	土	1	1.78	1.16	//	3					1961
// //	// //	// //	ない	//	1	1.82	1.15	//			改築	//		//
// //	ねりべい	寄棟 茅	//	//	1		1.60		0					1969
土蔵 //	くら折置	切妻 2重 茅	戸前		1	1.80	0.99	土引戸	0			13		1961
// //	// 京呂	// 本瓦	//	土	1		1.06	//	0		改築	//		1969
// //	// //	// 2重棧瓦	//	板 0.3	1	1.88	1.06	板引戸	1			//		1961
// //	// 折置	// //	桁行	土	1	1.76	0.97	土引戸	1					1965
// 2階	// 京呂	// //	戸前	//	1	1.82	1.12	//	1					//
// //	// 折置	// //	//		1				4			14		1961
// //	// //	// //	//	2	2.09	1.13								//
// //	// 京呂	// //	桁行	土	1	1.81	1.09	板引戸	3	計屋				//
// //	// 折置	// //	戸前	板 0.2	1			//						//
// //	// 折置	// //	//	// 0.8										//
// 平屋	// //	// 2重 茅	ない	// 0.5	1	1.74	1.68	土引戸	0		改築			1965
// //	// 京呂	// 棧瓦	//	土	1	1.76	0.93	板引戸	1					//
土蔵 2階	// 折置	// //	戸前	板 0.9	2	1.81	1.12	//	1	穀箱付	移築	34		1963
// 平屋	// //	// //	//	土										//
板蔵 //	// //	// //	桁行	板 0.3	2	1.82	1.77	板引戸	0		改築		市	//
土蔵 //	// //	// 2重 //	土	2	1.85	0.92				改築		29		//
// //	// 京呂	// //	戸前	板 0.5	1	1.86	1.78	土引戸	0		改築	28		1964

る。しかし全体として、蔵入地の場合には1村について年貢米用、備荒用郷蔵を含めて、1棟以上の郷蔵が存在したといえるであろう。

しかしながら江戸時代が去って100余年を経た現在、郷蔵も当初の倉庫の姿を留めて残っているものはもちろん、転用されて遺構を留めているものさえも極めて少なくなったようである。筆者は1959年から1969年の間に、全国各地の教育委員会、郷土史家等のご協力を得て郷蔵遺構の实地調査を行ってきたが、数年前までは残っていたものでも、現地に行くとなすで無くなった例が数知れなかった。第2表に江戸時代に建てられた郷蔵遺構のなかで現存する⁴⁾もの108棟を示す。もちろん調査地域には粗密があり、これ以外にも筆者の知らない遺構も数多くあることと考えられるが、一応郷蔵建築の型としては、一通り出つくしたのではないかと考える次第で

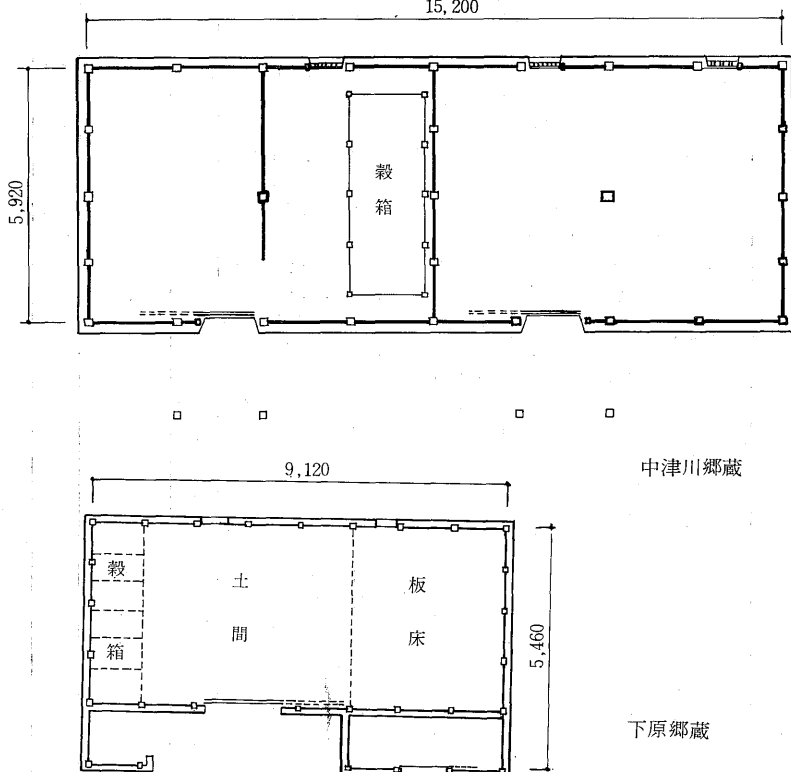
ある。それでは第2表を説明する。

建築年代 108棟のうち31棟が判明した。1800以降のものが殆んどで、それ以前の例、すなわち、新淵、下手向、上泉等は貴重である。

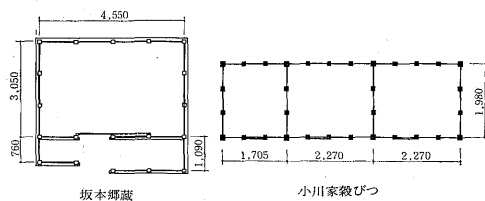
建築目的 一般に年貢米用か備荒用か不明なものが多い。これは兼用した場合もあったとも考えられ、ここでは記録や名称によって明確に区別出来るもの以外は記入しなかった⁵⁾。

規 模 梁間に関しては3間以内のものが多いが、桁行の大きさに関しては、収容石高によって差があるのは当然である。高さについては平屋建が原則のようで一般に3M程度のものが多い。

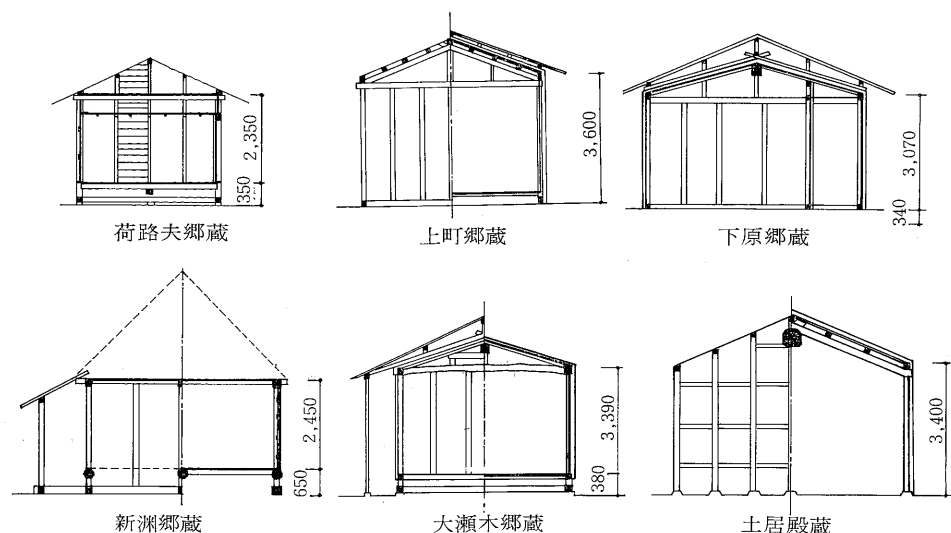
構 造 土蔵と板蔵とに大別でき、内部空間の断面からは棟の空間が高いくら型と、四角なほこ型とに区別される。くら型の土蔵は更に軸組の構造によって、木舞



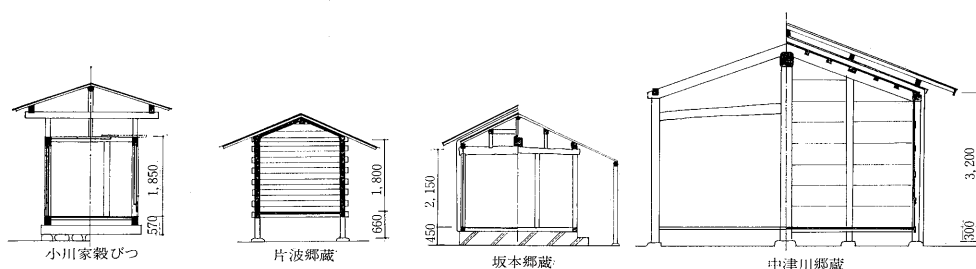
第1図 郷蔵平面図-I



第2図 郷蔵平面図-II



第3図 郷蔵断面図―Ⅰ



第4図 郷蔵断面図―Ⅱ

型、板蔵型、せいらう型に区分できる⁶⁾。また木舞型はその架構方式によって第3・4図のきす式（上町郷蔵）、棟木式（下原、大瀬木郷蔵）、地棟式（土居殿蔵）、敷梁式（坂本郷蔵）に区別される。なおくら型の土蔵の変形として、ねりべい式の例（瀬戸郷蔵）、石蔵式（市野々郷蔵）がある。板蔵ではくら型の板蔵型とせいらう型（片波郷蔵）があるが、一般にははこ型（荷路夫、新洲郷蔵）が多くにみられる。なお穀びつ型（小川穀びつ、長久保郷蔵）もあって入口がなく、外部から出し入れする。

屋根形としては切妻が多いが、茅葺の場合は寄棟もある。葺材は以前は茅とか板が多かった。新しいものでは棧瓦に変っている。なお2重屋根形式も多い。

庇 戸前に庇を付ける場合と、桁行全体に庇を付ける場合とがあって、庇を種々の目的に利用していた。

床 一般に板床が多い。土蔵の場合には土間の例もある。

建具 表には1番外側の建具を書いた。一般の土蔵は土開戸を持つ例が多いが、郷蔵では土引戸、板戸だけの場合が多い。

窓 ないものと1つだけのものが極めて多い。
穀びつ 穀箱付と書いたのは造り付けの穀びつのあることを示している。

なお移築改築が多くみられる。参照文献名を7)に示す。

3. 主な江戸時代の郷蔵遺構

第2表にあげた郷蔵遺構について、郷蔵の型として特色のあるもの、時代的・地域的特色のあるもの、建築年代が明確なもの、建築事情が明らかで特に住民の生活と密着した関係のあるもの等の特色ある事例をえらび出し説明を行なう。

a. 年貢米収納用郷蔵

播磨京田郷蔵 山形県鶴岡市

8間に4間のこの建築は、郷蔵のなかでは最も大きい方に属する。このほか穀蔵もあった。当村の石高は1452石余あった。この建物の特徴は大きい架構を支えるために中柱が2列に並んでいることである。また現在地に移築する前は茅葺で寄棟の屋根であった。

久保田郷蔵 茨城県石岡市

板蔵に大きな茅葺寄棟造りの屋根を架けたこの郷蔵は、蔵というよりは納屋といった感じがする。しかし江戸時代の年貢米用の郷蔵は、このような姿をしたものが多かったと推定される。平面の略 $\frac{1}{3}$ が土間で、残りは板床で、そこに米を保管した。また粟や稗は茅葺の小屋裏に貯蔵していたという。

堀切郷蔵 東京都葛飾区堀切町

堀切小学校のそばにあるこの郷蔵は、茅葺寄棟造の板蔵である。外部は板を横羽目、内部は縦羽目に張っている。戸前は厚板の落とし込みによってふさぐ。堀切は幕領で1824年には480石余の村高であった。3間に2.5間で7.5坪の郷蔵の広さは、年貢米収納保管用郷蔵とみても妥当であろう。

新淵郷蔵 岐阜県庄川村

郷蔵として最も古い棟札が残っている。棟札には「元禄5申年8月、御蔵出来、持主新淵村五郎助、濃州郡上鷺見村大工長門守喜左衛門」とあり1692年の建築である。現在の建物は桁行2間半、梁間2間、下屋半間付であり、屋根は切妻合掌式茅葺であったが、近年小屋組を改造し、2階を設け瓦葺となった。床高は700で、1階部分は穀櫃状をしており、階高は2,360である。以前の2階は合掌屋根の妻側から梯子によって出入し利用した。平面は下屋から本体に入ると戸前の間があり、さらに3坪の奥蔵と1坪の稗蔵がある。

壁は貫の外側に落とし込み式と縦板張りの併用となっている。

下手向郷蔵 岐阜県山岡町

この郷蔵は土蔵造りで、本体がはこ型であり、形の類似から豆腐蔵ともいわれる。屋根は以前は草葺であり、小屋組の空間も利用したらしい。

蔵内に棟札があり「郷御蔵普請、天明元辛丑年七月二五日、下手向村庄屋、百姓代……」で1781年の建築である。当地は幕領でまだ貯穀がはじまっていないとみられるので年貢米用の郷蔵とみられる。

豊住郷蔵 静岡県浅名町

当郷蔵は管ヶ谷主税、松平美作守、花房仙次郎の3人の知行者が共同で建設したもので、各領分の大小に応じて仕切られている。板書によれば安政7年3月改造とあり1860年に改造されたものである。

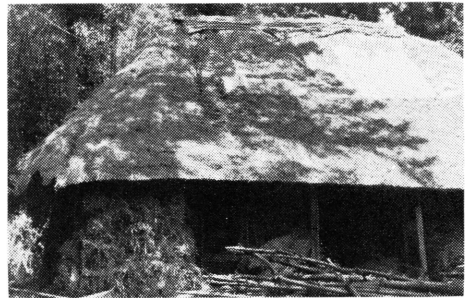
土居殿蔵 愛媛県城川町

年貢米を収納保管したので、殿様の蔵という意味で殿蔵と称した。建物は細長く同一屋根で覆われているが、3間だけが土蔵であり、他は計屋その他に使用されたとと思われる。内部の構造は妻側は天秤梁しかなく、地棟が架けられている。

b. 年貢米収納と備荒貯穀とを兼用した郷蔵

上町郷蔵・靱蔵 山形市上町

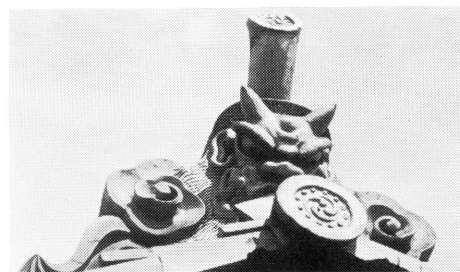
当地には年貢米用の郷蔵と、貯穀用の靱蔵（靱堂ともいう）がある。前者は土蔵で梁の上にさすを架して、太い棟木や地棟を使わぬ構造である。後者は靱堂の名が示



第5図 久保田郷蔵



第6図 下手向郷蔵



第7図 中津川郷蔵鬼瓦



第8図 中津川郷蔵

すように板蔵で、出し入れは帖木をはずして行なう。この建物は領主の命によって万延元年（1860）に竣工したという。

下原郷蔵 長野県真田町

1706年の上田藩明細帳では7間に3間の郷蔵があった。現存の建物には内部妻柱に「寛政12年申8月御蔵造立」の墨書があり、それ以前のものよりも縮小している。戸前は南側側桁から、入り込んでおり、戸前左右に小部屋がある。内部は片側にバラ積み用の穀箱がならび、反対側には俵用の穀箱があった。

若宮郷蔵 長野県富士見村

部落の略中央の路傍にある。外観は当諏訪地方独特の形式でゆるい勾配の石置屋根が戸前の前面にのびてきて庇となり、それを前面に立った虹梁柱が支えている。戸前の東側には1坪程の小室がある。本体は土蔵で太い棟木があり、小窓が1個付く。内部にある1849年の墨書によって建築年代がわかる。保存のよい郷蔵である。

中津川郷蔵 岐阜県中津川市倉前町

当地は木曾代官山村領で、この郷蔵は内部にある板書⁸⁾から1808年に再建されたものである。建物は2戸前に分れ1方の内部には穀箱がある。土台は使用していない。板書の記載からは、この郷蔵の再建にあたっては領主からの補助が大きかったことがわかる。なお屋根瓦は当初のものらしく、鬼瓦が権力の象徴であるかのごとくみえる。

坂本郷蔵 愛知県蒲郡市

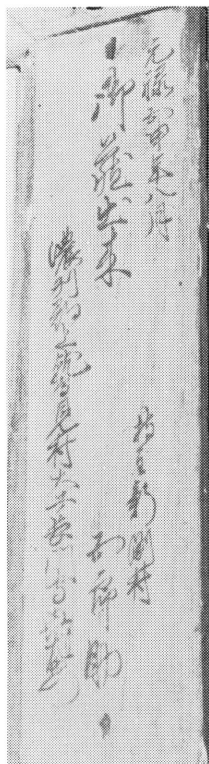
この郷蔵は小規模な土蔵ではあるが、本屋根をのぼして庇をつくり、小室が付いている。内部の構造は小屋梁と敷梁とを使った構法で、柱間隔も一定してない。棟札によると「御倉立替、尾州津田領、万延元年八月十九日、大工云々」とあるから、1860年のものである。蔵内には墨書が多く、特に板戸の裏面は建替の前（1827年）からの墨書が一ぱいうまっている。窓はない。

越賀郷蔵 三重県志摩町

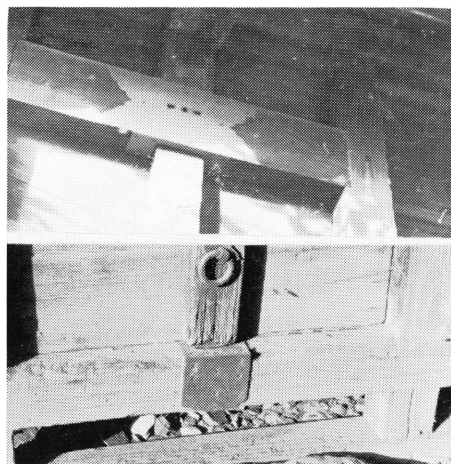
当地は鳥羽領で年貢蔵と称されている。蔵には2戸前あって1方は3間に2間で、内部に天保9年（1838年）の墨書があり、それによると村内の富農の義捐金で麦や稗を購入して施したことが書かれている。もう一方は1間半に2間で、柱に明治8年（1875年）新造との墨書がある。

河内郷蔵 三重県海山町

当地では郷蔵は納所蔵とか地下蔵と呼ばれている。こ



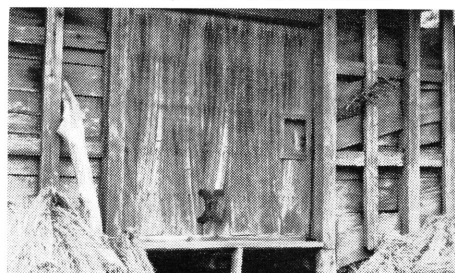
第9図 新淵郷蔵棟札



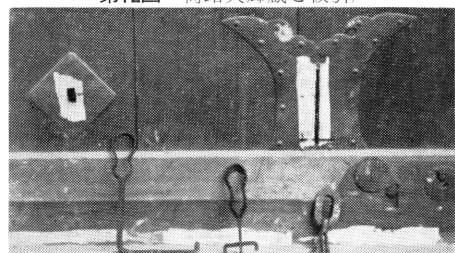
第10図 上町郷蔵帖木（出し入れ口の戸締り）



第11図 伊勢山郷蔵穀箱



第12図 荷路夫郷蔵と板引戸



第13図 大瀬木郷蔵 鍵と錠

の郷蔵は安政6年(1859年)に建てられたことが、棟札によってわかる。なおこの建物は瓦葺であったため、次のような歌がうたわれたと云う。「瓦葺きはお寺か宮か またもあります地下くらが」。海山町の郷蔵はこの他に2棟残っているが、いずれも小屋組の下に天井があってはこ型である。

市野々郷蔵 和歌山県那智勝浦町

村社王子神社の南側境内石垣に接し、1棟は西面、1棟は南面して建つ。構造は柱を全く使用しないで、自然石を積み上げて巾0.9~1.1m程の壁とし、内側からは赤土をもって隙間を塞いでいる。壁高は1.9~2.0mで、太い棟木を架して屋根を設ける。戸前部分の壁は約1.4m程開いており、建具枠が取付けた跡が残っている。

福田郷蔵 広島県竹原市

この郷蔵には戸前が2つあり、1方は5坪余で瓦敷、別の方は2坪余で土間となっている。これは年貢米蔵と社倉とを区別したものと推定される。庇の東袖壁は土蔵本体と同様にぬり込めに仕上げられ、腰壁はすべて丸味を帯びた屋根瓦をはりつけてある。

c. 備荒貯穀用郷蔵

社倉的な例

荷路夫郷蔵 福島県田人村

荷路夫は泉領で、郷蔵は1804~1817年の建築といわれる。貯穀用につくられた板蔵で、北向の斜面に建てられている。このような地形は穀が長期間老化しないといわれる。もと2棟同様な蔵があったが1棟は解体された。内部は両側に穀箱があり、床から2M程で天井がある。更にその上にも天井がある。

桐原郷蔵 群馬県桐生市

桐原は幕領で村高354石余の小村であった。1788年幕府による貯穀令によって出穀を開始し、当初は私人の土蔵を借用していたが、年々徴集した郷蔵建設費3貫719文余と、入会地の立木と葛根を売却した代金13両1分とによって、敷地と村民所有の古土蔵を購入し、幕府の援助によらず村民の力で弘化4年(1847年)に完成した郷蔵である。建物は質素ながら外部の腰巻には割石のまじった壁土を用い、盗難を避ける配慮がみられる。

長久保郷蔵 長野県長門町

当地は幕領である。1744年の明細帳によると、当時は4間に3間の郷蔵があった。これは年貢米用のものと推定される。現存する郷蔵に1間に8間の細長い穀櫃型の建物で備荒貯穀用のものである。記録⁹⁾によると1859年の建築である。平面は1間4方の小室が5つ、1間半と1間のものが2つある。それぞれ開き戸で出入する。壁は板を落し込んである。開き戸は明治になって現在地に移築した際に付けられたものであろう。

大瀬木郷蔵 長野県飯田市

飯田領では1810年から貯穀制が開始された。当地でも有力者の蔵から救済の貸付けを行っていたが、貸付の不公平から1852年騒動が起り、これが原因となってこの郷蔵がつくられた。すなわち1856年藩からの拝金15両1分3朱と1貫213文に林の入札代金、米払代金を加え、18両2分3朱3匁、1貫213文をもとにして、各戸が材木、労力を出しあって翌年完成した。当初は板葺であった。この蔵の構造は土蔵ではあるが束の上に立ち下方が開放的になっている。これは穀物の貯蔵という目的によってこのような形をとったものである。建物の名も靱蔵と呼ばれている。さらにこの郷蔵は鍵を3つ使用して開閉し、管理を厳重にする意図がみられる。なお敷地が寺院の中に建てられた点も変っている。地代として年々穀3斗を支出している。

片波郷蔵 京都府京北町

片波郷蔵はせいらう造りで、しかも66cmながら高床状の形態をしている。当地方にはせいらう造りが多くみられ、地域的な手法を用いたものである。棟札によると「文久二年戊戌十月吉祥日、奉再営当所郷蔵新建之 兼常庄屋黒田宮邑嘉左エ門、年寄、百姓代、大工若狭大飯郡青村平右エ門作也」とあり、1862の建築で備荒用として新設されたもののようである。

妻鹿固寧倉 兵庫県姫路市

姫路藩の固寧倉は社倉の1種で、1808年以来大いに奨励し、1815年には領内60カ所、1846年には288カ所に達した。妻鹿固寧倉も当時の建築で、蔵の半分が細い地棟を用い、半分は棟木だけである。妻破風の竜の彫刻がみごとである。固寧倉の額は当時の大学頭林又三郎の書によるもので、藩ではこれを高い理念を示すものとして木に彫って各倉の戸前の上に掲げさせた。

香登本郷蔵 岡山県備前町

岡山領で1657年開始された畝麦法は、のちに育麦法と改められ、1716年には領内の育麦蔵は161になった。当時はまだ自分蔵といって多分庄屋個人の蔵と思われるものがあったが、その後はへっていきようである。当地の郷蔵は¹⁰⁾育麦蔵の記載のある点から1716年以前から存在していた。現存のものは1854~1859年の文書に同じ規模の記載があるのでその頃の建築であろう。

下筒賀社倉 広島県加計町

部落から離れて道端に孤立して立っている姿はいかにも郷蔵らしい。小形の土蔵で切妻型の茅葺屋根がついている。明治の末頃一度火事があって屋根の一部を焼いたことがあるといわれている。内部には「天保6年末7月5日麦納、木坂組」などの落書きがある。構造は地棟によって合掌組を支えている。

義倉的な例

西尾義倉 愛知県西尾市

西尾の義倉は備荒貯穀と貧民救済を目的として1854年西尾藩の御用商人で大庄屋をも勤めた平井長兵衛によって、富豪有志者の協力を得て創設されたもので、建物は1858年天王社の境内に建設された¹¹⁾現存する建物は殆んど当時のままで、ただ戸前のわきに窓が1つ加えられた。戸前を開いていた土堀の一部も残っている。

三崎義倉 高知県土佐清水市

三崎義倉の創設は大庄屋沖市左エ門が1819年に行なったもので、粃を貸付け、利子を増長米と称した。当初の義倉の大きさはわからないが、藩が1843年に領内7カ所に新設した義倉は2間に1間半で板壁瓦葺の蔵であった¹²⁾。ということからそのような小規模のものであったと思われる。現存の建物は藩の年貢米用蔵を移築したものといわれ、板蔵であり戸前があって義倉米と増長米とを区別していた。

甘木義倉 福岡県甘木市

甘木において1822年創設された義倉の碑が、須賀神社の境内にある。その碑の後にあるのがこの蔵であり、これに貯穀を行なったものと推定出来る。

個人の蔵を利用した例

小川家穀櫃 東京都小平市小川町

小川家に残された古文書¹³⁾によると、幕府の命令で1788年以来1803年迄貯えた稗309石余のうち、半分はバラ積みで穀櫃に、半分は俵に入れて土蔵等に保管してあった。いずれも村の主だった者の倉庫である。小川家の穀櫃もこの1つであり、16石入りが2つ、12石入りが1つ続いている。建物の妻側をみるともっと長かった穀櫃を切断したように見える。穀を入れるときは天井についた引き戸、出すときは壁の一番下の引戸から行なう。

助松備窮蔵 大阪府泉大津市

この郷蔵は田中本陣の邸内にあって、「清水殿御領中備窮倉」の額があり、裏には「寛政5年建助松村」とある。1793年の建築である。しっくり仕上げの蔵に本瓦の屋根が置屋根式になっている。妻側には梁を使わず、棟木だけの架構で、戸前は板戸と格子戸だけで、窓は内開の土戸を用いている。

(瀬戸) 郷蔵 岡山県瀬戸町

この郷蔵は瀬戸町の大庄屋元岡家の蔵で備荒貯穀用に使用されていたといわれている。柱を使わず粘土をブロック状に7段積み上げ、その上に桁や梁を架けて茅葺寄棟の屋根が設けられている。現状では戸前が2カ所ついているが、もとは平入り中央に1カ所あったものとみられる。



第14図 妻鹿固寧倉の額



第15図 大瀬木郷蔵

第16図 香登本郷蔵



第17図 三崎義倉

4. むすび

江戸時代の郷蔵は、幕府および諸藩の徴税施設として、支配者の建築である面と、社倉の名に表現されるように、村民の共同施設として相互扶助を行なう、非支配者の建築である面との2面を持つ興味深い建築である。今回はかつて全国の村々に存在した当時の郷蔵が、殆んど失われてしまった現状と、わずかに残った事例について主な特徴について解説した。今後関係者が郷蔵の特徴を把握の上に、全国的観点に立って保存を考えるべき段階に達したと考える。なお本調査研究に対してよせられました関係各位のご協力に深く感謝致します。

注および参考文献

- 1) 拙稿 江戸時代の郷蔵建築Ⅰ 敷地を中心として 中部工業大学紀要第3集 1967
- 2) 萩藩の国郡志編集の地方資料として、藩内全域の町村から差出させた明細書出である。山口県文書館刊本篇21冊。

- 3) 宰判とは萩藩の行政区で郡に近い。
- 4) 調査の時点において存在したもの。
- 5) 建築年代、面積、戸前数、構造、設備等によって建築目的の推定が或程度は可能であろう。
- 6) 拙稿 近世における郷蔵建築の型について、上州勢多・利根地方の場合、日本建築学会論文報告集第69号 1961
- 7) 1～34. 拙稿 日本建築学会関東支部研究発表会梗概集所載、くらの研究の番号、1960～1964
 69, 103 拙稿 日本建築学会論文報告集番号 1961～1964
 号外 〃 〃 〃 号外 1966
 海 4 〃 〃 東海支部研究報告集 4 号1965
- 8) 御蔵再建
 木材并大工木挽杣 右作料扶持米其外鉄具類瓦杯御上諸入用
 人足并竹葉縄赤土砂木材も夫役相勤事 但赤土砂之儀は面々伝馬
 役相勤申候
 文化五年戊辰九月
 御代官 高坂等作 以下略
- 9) 当地の郷土史家小池与氏による。
- 10) 岡山池田家文書 撮要録16倉廻之部享保元年甲改御郡中育麦蔵
 数留帳
- 11) 三橋時雄 三州西尾の義倉 経済史研究28-6 1942
- 12) 農商務省 社倉制度に関する調査統
- 13) 関利雄他 穀糧 西郊文化 9 1954 46～47ページ